# 令和2年度 学校評価報告書

| 園名 | 三田市立志手原幼稚園 |
|---|---|

1　教育目標

意欲的な子・・・どんな遊びも喜んで取り組み力いっぱいがんばる子

やさしい子・・・みんなと仲良く遊びこころ豊かな思いやりのある子

元気な子・・・・明るくよく遊ぶたくましい子

2　今年度の重点目標

『様々な人や友だちの中でつながり合う力を育てる』

～4・5歳児がやりたいことに向かって動き出す姿を支える教師の役割を探る～

4歳児…安心して自分の思いを表現し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

5歳児…友達と思いを伝え合いながら、目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう。

3　総合的な自己評価

幼児に人とつながり合う力を育むためには、どのような環境構成や教師の援助が必要なのかを探りながら保育を進めてきた。一人ひとりの発達段階や個性、課題を理解しながら、どんな経験をしてどんなことを学んでほしいのか、教師が願いと意図を明確にもつようにした。やりたいことに向かって自ら動き出す姿を支え、思いや考えを言葉にして伝え合う関わりを保障してきたことで、徐々にその力がついてきたように感じる。

次年度も、保護者や地域の協力を得ながら、幼児が伝え合う姿をしっかりと支え、一人ひとりの違いや良さに気づいて認め合い、人とつながり合う力が伸びていくように保育の充実を図っていきたい。

人との距離を保たねばならないことを強いられるコロナ禍であるが、だからこそ、みんなで助け合い支え合うこと、相手を分かろうとする気持ちをもって人と関わることの大切さを感じとらせたい。

4　総合的な学校関係者評価

園だよりや通信から、４歳児の初めてのことにも何でも挑戦しようとする意欲や、５歳児が４歳児を思いやる姿など、様子がよく伝わってきた。みんなで相談をしながらいろんなことに挑戦していて、それぞれの子どもの思いや考えを大事にしながら見守っていることが分かった。保護者も安心して通わせていると思う。

劇遊びを見て、色々な制限があった中でも工夫しながら、こんなにも子ども達に思いやりの気持ちやがんばる気持ちが育まれていることに感動した。友達を思う心をもち、一人ひとりが自信をもってしっかりと行動できていた。コロナ禍で人との距離を保たねばならなかったが、制約がある中でも工夫してやってみるという力が身についた１年だったのではないだろうか。子ども達と職員との心のつながりを強く感じたし、どんな状況の中でも立派に成長している子ども達の姿はたいへん嬉しく、今後の成長が楽しみになる。

5　評価結果

| 自己評価 | | | | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|
| 分野・領域 | 評価項目（取組内容） | 評価結果及び分析 | 改善の方策 | 学校関係者評価委員会の意見 |
| 教育課程 | ○学びに向かう力を育む保育内容の充実<br>・幼児の内面理解を深め、4、5歳児それぞれの発達過程を保障しながら見通しをもった保育計画を立て、実践していく。<br>・幼児が主体的に動き出せるような環境構成の工夫をし、遊びを支える教師の援助の質を高めていく。<br>・教師間の連携を図り、様々な角度から幼児の姿を多面的に捉え、共有していく。 | ・一人ひとりの内面理解を深め発達段階を捉えて、育ちの姿に願いと見通しをもった保育計画を立てた。異年齢の小規模集団で幼児の育ちをどう保障するか、活動内容を試行錯誤しながら進めてきた。<br>・幼児の心が動きだす姿を捉え、学びにつなげていく教師の援助について探ってきた。幼児が自分の思いをしっかりと表出できるよう願いをもち、主体的に動き出す姿を支えられるよう努めた。<br>・教師間の話し合いを積極的に進めながら幼児理解を深めてきた。幼児の姿を多面的に捉えて伝え合い、よりよい育ちに向けて考え合うことができた。 | ・次年度も、一人ひとりの発達段階を丁寧に見とりながら、見通しをもった保育を展開していきたい。<br>・幼児の実態や興味関心を捉え、どのような経験をさせ、どう育んでいきたいのか、教師が願いと意図をしっかりともって保育していきたい。<br>・次年度も連携をとり、一人ひとりの育ちを振り返り、幼児の姿と育ちの足跡を共有しながら保育を進めていきたい。 | ・コロナ禍で制限のある中、工夫して保育をし子ども達は伸び伸びと園生活を楽しんでいた。子ども達の育ちには個人差があるので、次年度も引き続き、一人ひとりの子どもを丁寧に見て保育をしてほしい。<br>・一人ひとりの個性や思いを大事にしながら、みんなで遊びを考えたり協力して活動するなど、集団生活が楽しいと思える援助をしていると思った。<br>・少人数保育は意見や行動が偏りがちになり、難しいと思うが、今後も保育を工夫しながら、たくさんの経験をさせてあげてほしい |
| 保護者・地域住民との連携 | ○園運営、園行事への保護者や地域住民の参画の促進<br>・園の取り組みや教師の願いと意図、幼児の育ちの情報発信の工夫をする。<br>・地域の人と連携し、ふるさとを愛する心を育めるような、ふれあいや体験活動ができる場作りを工夫する。 | ・通信やドキュメンテーション、登降園時の直接的な対話や掲示を通して、園の取り組みや教師の願い、幼児の育ちや学びの様子を伝えるよう心がけた。<br>・コロナ禍の中、体験活動ができる場は昨年度よりもちにくかったものの、地域の人の協力を得て継続した体験活動ができた。その中での幼児の気づきや学びの姿を通信等で伝えるように努めた。 | ・次年度も誠実かつ丁寧な対応を心がけ、直接的な対話や通信などを通して、園運営や幼児の育ちについて理解を深めてもらえるよう、アプローチをする。<br>・コロナが落ち着き次第、オープンスクールの情報発信を工夫するなど、地域の人に来園していただける機会を増やしたい。老人会とのふれあいや体験活動等も再開したい。 | ・通信で園での様子を詳しく伝えること、降園時にその日の出来事などを話してくれることは、日々の成長を知ることができて嬉しいと思う。<br>・次年度はもっと制限のない状態で、地域の人と色々なことに取り組めることを期待したい。ふれあい大会が幼小一緒に親子で活動ができてよかった。次年度もアイデアを出し合ってよい活動にしたい。 |
| 子育て支援 | ○親と子がふれあい、仲間作りができる場作りの工夫<br>・園児親子、未就園児親子等、誰もが安心して集える温かい場作りに努める。<br>・園庭開放、未就園児交流などの活動内容の工夫をする。 | ・コロナウイルス感染予防のため園庭やテラスを利用しての活動内容を工夫してきた。親子でアクアビーズ体験などの新しい試みができた。<br>・コロナ禍の中、例年通りの回数を実施することはできなかった。取り入れたい活動内容に対して回数が少なく、1回の子育て支援事業に様々な活動を少し詰め込み過ぎたように感じる。参加した時に出席シールを貼るなど、新たな試みもできた。 | ・いつでも誰もが気軽に立ち寄り話しかけられるような、教師の雰囲気作りを心がけていきたい。保護者同士の交流を深めやすいように、教師が橋渡しをしたり、活動の時にはゆったりとした時間設定にするなど、関わりがもちやすい場作りを心がけていきたい。<br>・活動内容や回数を見直しながら、参加したくなる内容の工夫を探り、案内チラシのレイアウトも魅力あるものに工夫していきたい。 | ・職員のきめ細やかな対応がアットホームな温かい雰囲気を作っていると思う。アンケートからも保護者の信頼感が伝わってきた。今後も、子育て中の保護者が相談したり気軽に話をしに来たりできる広い窓口であってほしい。<br>・子どもが小さい頃は、地域の園で、気軽に行ける機会があるのはとてもありがたく、芝生で遊べることや先生が声をかけてくださることも楽しみだった。少し遠くからでも参加してもらい、志手原幼稚園の良さを知ってもらいたい。 |
| 学校園所連携 | ○学びの連続性を意識した学校園の交流活動の工夫<br>・幼小接続カリキュラムを軸に、発達段階を捉えながら、幼児と児童共に、互恵性のある交流活動がもてるように工夫する。<br>・上野台中学校と中学校区内の3園（小野・高平・母子幼稚園）との交流活動の充実を図り、人と関わる力を育む場作りをする。 | ・5年生とはペアを固定化して活動を行い、より深い信頼関係を築くことができた。1年生とは新たな活動も取り入れながら、経験が徐々に積み重ねられ、幼児が自信と期待をもって就学を迎えられるように工夫した。<br>・感染予防のため写真や手紙など、多様な交流の形を模索しつつ進めた。3園との交流活動は感染予防から実施できなかったが、中学生と充実した交流をもつことができ、人と関わる力を育む有意義な場作りとなった。 | ・交流の中で得られる学びと楽しさを整理しながら、次年度も幼小の教師がつながり、発達段階を捉えながら学びの連続性を意識した互恵性のある交流活動をしていきたい。<br>・次年度も義務教育の終わりの15歳までの育ちと学びをつなぐ視点を明確にしながら、互恵性のある交流の充実に努めていきたい。今年度の中学生との交流が有意義だったため、次年度も検討したい。 | ・今年度は幼小合同の行事が多かったが、小学生にとっては幼稚園への懐かしさと、妹や弟と接する時のような優しい気持ちになり、自らの成長も感じられた。園児は憧れや希望を膨らませることができ、互恵性のある交流活動になった。<br>・次年度は地域他校園との交流が復活し、縦と横のつながりが充実できることを期待する。 |